

7月8日(水)「丹BALI」ミーティング@無鹿リゾート

研究推進部・吉田 究

1学年の「丹BALI」(知探「探究」、2～6組「総合」)では、今月15日、「丹波の魅力をおすそわけ」と銘打ち、地域で活躍される14名の講師さんをお招きして、学年240名の生徒たちがそれぞれお話を伺う予定でいます。

これは、今年度初めての取り組みで、しかも、本来なら4月から段階的に進めていくはずだったのですが、新型コロナの影響で授業回数も減り、7月の今回が初めての顔合わせとなってしまいました。

ここまでの「丹BALI」の取り組みについては前号までで報告した通り。15日は、それぞれの興味に従い、各講師先生から(50分という短い時間ではありますが)お話を伺う予定でいます。

8日(水)の晩は、本プログラムのコーディネーターを務めてくださっている鴻谷佳彦さんの経営なさる鹿肉料理店「無鹿リゾート」(丹波市春日町)に結集(!)し、20時から22時過ぎまで、熱く、熱く語り合いました(オンラインで参加の講師さんも)。私たち研究推進部は「聴く力・読む力」「考える力」「伝える力」「発表する力」を育むことをこの授業の目標としているのですが、熱く真面目な講師の先生方も同様に頭を悩ませ、その目標を念頭に、前向きに、建設的に検討してくださいました。

が、我々研究推進部のさらに厚かましい期待は、上記「伝える力」「発表する力」等は我々が後で何とでもフォローしますから、講師の先生方には、思いっ切り掻き回していただき、刺激していただき、それぞれの専門分野への「熱さ」に当てさせてやって欲しいと願うのです。

少し話が変わるのですが、丹波篠山市に住む知人の猟師さんが、丹波篠山市に住む知人の農家さんとコラボして、「ドッグフード」を作ったんです。

### 「鹿と野菜のドッグフード『猟犬のスープ』」

材料は丹波篠山産の天然鹿肉と野菜、玄米粉のみ。鹿肉は地元猟師が丹波篠山で獲ったものを100%使用。解体業・食肉販売業施設を運営する猟師が精肉しています。

野菜は、有機無農薬のものを使用。添加物は一切使わず、骨と一緒に長時間煮込むことで、素材本来の香り・甘味を引き出しています。

とろみづけには玄米粉を使用することで、グルテンフリーも実現しています。

ブロススープの煮込み、柔らかく刻んだ鹿肉と合わせる工程は、ヒューマングレードの基準を満たした衛生的な加工施設で製造しています。

野生の力を取り戻せ。

## HUNTING DOG SOUP

猟師がつくる、鹿と野菜をふんだんに使った  
猟犬のスープ。



どう、美味しそうじゃない? イヌじゃないけど、食べたくなんない? ていうか、私は、むしろこれを食べるためにいつそイヌになってしまいたいような気持ちにさえなってきました…。(汗)

8日は、会場へ向かう前、部内で、上記の「力」と合わせ、「感じる力」「楽しむ力」があるといいよねって話をしました。地域のこと、身の回りのこと、日々の生活を楽しめる力。いえ、これは別に、「丹波の魅力を理解しろ!」とか「丹波はいいところだから将来必ず帰って来い!」とか言うんじゃないんです。身の回りのことを十分に楽しめる人は、何をしても、どこに行っても生活を楽しめるのではないかと。身の回りのことを楽しむことが、その人を魅力的にするのではないかと思うのです。

15日。1年生の皆さんが熱い講師の皆さんから刺激を受け、心の中に何らかの変化が、変化の兆しが芽生えることを楽しみにしています。講師の皆さん、どうぞよろしく願いいたします。

追記: 研究推進部の我々は会議の90分前に会場に到着し、鹿肉とアマゴとスッポンと熊肉(ツキノワグマ)を食しました。これも、「楽しむ力」を育てるための勉強です。

### 今週のおすそわけ！

研究推進部長 丹生 憲一

裏面の吉田先生の記事にもあるように、15日(水)は試験の前日ですが、1年生のみなさんには「丹波の魅力をおすそわけ」という楽しい授業を準備しています。ここでは、その講師の先生方の顔ぶれを紹介しておきましょう。本校HPにある授業用の動画(一部PDFの資料)もご利用ください。(順不同 敬称略)

- 一宮 祐輔 (丹波市民プラザ)
- 出町 慎 (関西大学・衣川会館)
- 小橋 昭彦 (丹波市会議員)
- 中川 ミミ (一般社団法人 Be)
- マイク・トイ (3 Rostery)
- 和田 輝政 (NPO 法人 imagine 丹波・わだしすてむ)
- 白川 やすよ (NPO 法人 imagine 丹波・コトブキフーズ)
- イラズムス千尋 (丹波布作家)
- 谷水 諒 (谷水加工板工業)
- 柳川 拓三 (やながわ・丹波市観光協会)
- 宮川 五十雄 (NPO 法人 森の都研究所)
- 荻野 雅文 (丹波市役所 企画総務部)
- 田中 公教 (丹波竜化石工房)
- 鴻谷 佳彦 (NPO 法人 imagine 丹波・無鹿 :写真)



それぞれが、「市民活動」「空き家利用」「働き方」「移住」「伝統工芸」「特産品」…と様々な分野で専門的な知識と経験をお持ちですが、必ずしも皆さんが考えているテーマに一致するとは限りません。講師の先生方のお話を聞いて、改めてテーマの変更があっても構いません。テーマはそのままで、新しい視点をもって、考えていたのとは違う切り口から取り組むことも大いにけっこう！実りある時間にしてください。

### See you, Kara!

3年間、ALTとしてお世話になったKara先生が帰国されました。7月の末まで滞在予定でしたが、コロナの影響で帰国してから2週間は自由に動けない事や、9月からは母国の高校で勤めることが決まったこともあり、帰国が早まりました。寂しくなりますが、これからもオンラインで連絡を取りましようと言っています。第2言語としての英語をヒスパニック系の子供たちに教えるそうです。柏原高校での経験を活かしてご活躍されることでしょう！See you again!

